

“つなごう！「暮らしと産業の資源の環」” を開催しました。 ご協力ありがとうございました。

本シンポジウムは、建設業の社会貢献活動の一環として、“ごみと産業廃棄物”を主テーマに岡崎市、豊田市につづき、3年目の区切りとして、名古屋市内で開催したものです。

今回は、準備が遅れ気味、中区役所ホールという大きな会場など、参加者の多寡が大いに不安でした。しかし、会員はじめ多くの皆さまのご協力により、開催日前日には募集定員 300 名をはるかに越える 400 名近くの参加者が見込まれ、当日の参加者整理に頭を悩ませる一幕もありました。結果的に350余名の参加者に落ち着き、盛況裏に進めることができました。

特に、今回はなごや環境大学の共催でもあり、約3分の1が一般市民、学生などの参加であったことは評価できるものと思われます。

シンポジウムは、メインゲストにタレントの大東めぐみさん、昨年に引き続き、司会、^{ていだん}鼎談と大奮闘の東海ラジオアナウンサー深谷里奈さん、産業界からは株式会社ユニーの百瀬規子さんと当協会環境対策委員会副委員長の水野良夫さん、行政からは名古屋市環境局長加藤正嗣さん、そして、コーディネーターには3年連続、中日新聞論説委員の飯尾歩さんという顔ぶれで進められました。

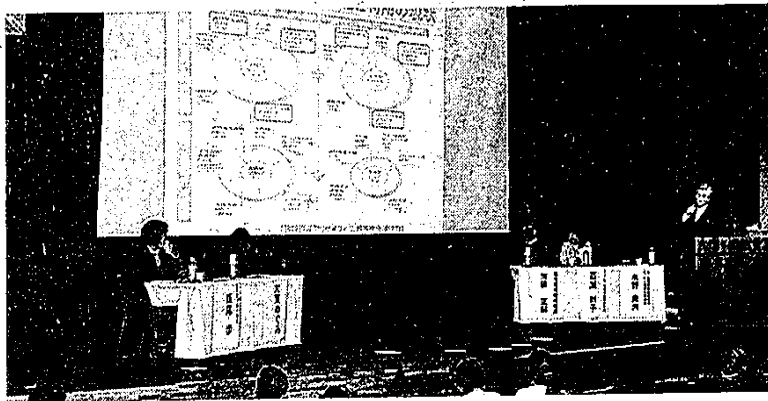


内容について、参加者の評価は、概ね、好評でした。シンポジウムにありがちな、淡々と報告、説明があり、ありきたりな質問、意見交換で“おわり”ということではなく、説明途中でもパネラーから質問が出されるなど、斬新な感じの応答であったと思います。特に、前半部分の鼎談では、さしもの飯尾さんも出番が無いくらい“女性陣のパワー”に圧倒された感じでした。このように、企画内容、進行はますますであったと評価できます。

尚、反省点は特に事務局側に多く、皆さまにお詫びいたしますとともに、次回への教訓としたいと思います。主な反省点は次のとおりです。

- 計画準備の立ち上げが遅かったこと。
- 共催者間の調整不足から、参加者数を確実に把握できなかったこと。
- 一部、共催団体の協力を十分得られなかったこと。
- 当日の役割分担があまり機能しなかったこと。
- 当日来場者の一部の方の参加をお断りしたこと。





中日新聞（愛知県内版）
21. 2. 24

ごみ減量 市民、企業、行政の力を

名古屋でシンポ、380人参加

「つなぐー暮らしと産業の資源の環」シンポジウムが二十二日、名古屋市中区栄四の中区役所ホールで開かれた。写真。

県建設業協会、名古屋商工会議所など共催。家庭ごみ、産業廃棄物の区別なく、市民、企業、行政が協力してごみを減らすのが狙い。約三百八十人が参加し、市民、建設業、流通業界、そして名古屋環境局の代表が、ごみ減量への取り組みを語り、お互いの連携と来場者の協力を

呼び掛けた。

このうち、県建設業協会環境対策副委員長の水野良夫さんは「建設廃棄物のリサイクル率は九割を超えている。みんなで力を合わせて、もっとごみのない社会を」と訴えた。

資源循環の取り組みなど紹介

3Rシンポ in なごや



あいさつする
増永会長

名古屋商工会議所、名古屋市長、名古屋大学、名古屋建設業協会、愛知県建設業協会が主催する「3Rシンポジウム in なごや」つなぐー暮らしと産業の資源の環（わ）が22日、名古屋市中区の中区役所ホールで開かれた。シンポジウムでは、建設業界を始めとする各界の資源循環に対する取り組みが紹介された。

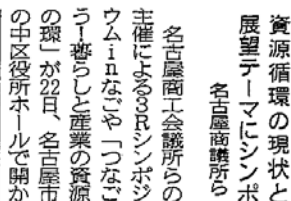
冒頭、主催者を代表して名古屋商工会議所建設業部会長で愛知県建設業協会会長の増永防夫氏が「地球環境問題は、市民、行政、産業界が一緒になって具体的な取り組みをしていくことが重要だ。このシンポジウムが、日々の行動につながれば幸いだ」とあいさつした。



発表する水野氏

続いて、飯尾歩中日新聞論説委員をコーディネーターに、タレントの大東めぐみさんと東海ラジオアナウンサーの深谷里奈さんが司会を務めた。この中で水野氏は、建設副産物の排出状況の変化と建設現場の事例を紹介し、これに対し大東さんは「ムダがないことに驚いた。廃棄物にしない建設業界の取り組みは素晴らしい」と述べ、飯尾氏は「だれが使ったかを考えることが循環型社会を構築することにつながる」と締めくくった。

さんが「この世の中に『みはな』をテーマに鼎談していただん。次いで、愛知県建設業協会の水野良夫氏、ユニー環境社会貢献部長の百瀬則子氏、名古屋環境局長の加藤正嗣氏が、それぞれの立場で取り組みを説明した。



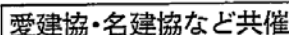
れた写真裏。一般市民など約380人が参加、資源循環の現状と展望について市民や行政、産業界それぞれの立場からの取り組みなどを学んだ。

はしめ、主催者を代表し名古屋商工会議所建設部会長で愛知建設業協会会長の増知保建太郎氏が「環境や、ご問題は、市民と行政、業界が一体となって取り組むことが重要。きょうのシンポジウムを機に、ごみの現状を理解し日々の行動につなげてほしい」とあいさつ。

取り組み紹介と意見交換では、愛知建設業協会の水野良氏、百瀬則子、ユニー環境社会貢献部長、加藤正嗣名古屋環境局長が、それぞれ取り組んでいるサイクル活動について報告した。

資源循環への認識高める

なごや環境大学特別公開講座



特別公開講座
「この講演は、愛知県建設協会の増永防夫会長（建設協会）が主催で行った。主催者を代表してあいさつした増永氏は、「事業活動や生活に關係する問題に対しては、市民と産業界、行政が一緒になつて具體的な取り組みをすることが大切」と述べ、「この機会に資源循環の現状と今後高めてほしいと訴えた。当日は、名古屋出身の」

タレント・大東めぐみさん、東海ラジオアナウンサー・深谷里奈さん、中日新聞社論説委員・飯尾さんによる鼎談(ていだん)や、各界の資源循環の取り組み紹介と意見交換会が行われた12月27日。

コーディネーターを務められたらどうすべきかという建設業界の取組めた飯尾さんは、建設業「考えてほしい」などと促組は素晴らしいと思う。発表を聞いた大東「まさ」と感想を述べている。組みを高く評価し「わさんも」「廃棄物になった」。